

令和 8 年度 会派議員派遣報告書

会 派 名	三原市議会公明党
議 員 名	萩由美子、高原伸一、生駒玲子
議員派遣先名	令和 8 年度 第 2 回市町村長等・議会議員特別セミナー

派遣費用

科 目	支出額	摘 要
研修研究費	29,100 円	研修受講料（@9,700 円×3 人）
研修研究費	660 円	振込手数料
研修研究費	68,130 円	旅費（@22,710 円×3 人）
合 計	97,890 円	

1 三原市での課題と派遣の目的（本市の現状と課題を明確に）

本市の課題はさまざま。人口減少（とりわけ若い世代）、中心地の空き店舗や空き家、働く場所や子どもを遊ばせる場所・買い物する場所や食事をする場所が少ない、など問題は山積し、なかなか解決の糸口が見えない。

同程度の規模の自治体又は小規模な自治体の事例を学びながら、本市で取り組める内容を模索する。

また他市町の議員と交流する中で、今後に活かせる繋がりを構築するため。

2 実施概要（1カ所目）

実 施 日 時	派 遣 先	全国市町村国際文化研修所 （滋賀県大津市唐崎）
令和 8 年 7 月 27 日 ～ 28 日	担 当 部 局	
報 告 内 容 ・ 所 感	年に 3 回行われている議会議員特別セミナーの 2 回目（前回は 4 月） 研修所での実参加 195 名、オンライン参加 100 名 * 27 日（1 日目） 13:15～14:45 ＜泉大津市発 農と食と健康を守るためのサプライチェーンの再構築＞ 講師：泉大津市長 南出賢一氏	

大阪府泉大津市 人口 72,921 人 面積 14.3 km² (ほとんどが市街地)

南出市長は、2007 年から市議会議員を務め、2017 年に市長に就任し、現在 3 期目。日本の社会課題の解決に向けた先導的なモデル事業の創出に「官民連携・市民共創」で取り組まれている。

さまざまな仕掛けを創出されているが、なかでも素晴らしいと感じたのは“医食同源”の考えのもと、市内全小中学校にオーガニック給食を取り入れておられる事だ。給食は基本ご飯で月に 1 回程度パン食。金芽米を使用。身体に悪い物は使わない。お米は有機米 60%・特別栽培米 40%で、全国 14 の自治体と農業連携し、年間 155t のお米を直接購入（ダイレクトサプライチェーン）。

子ども達の給食のみならず、妊婦さんに金芽米を毎月 10 kg プレゼントする全国初の“マタニティ応援プロジェクト”も取り組まれている。これにより低体重児の割合が下がるなど結果も出ている。

15:05~16:35

<生成 AI は議会をどうかえるか？～住民参加と政策力強化の観点から～>

講師：早稲田大学デモクラシー創造研究所 招聘研究員 山内健輔氏

生成 AI によって効率化し、生み出された時間と生成 AI の分析力を、議会の機能強化にどう活用するか、という内容の講義であった。

実際の生成 AI 活用状況は「議会だよりの作成」「住民からの問い合わせへの対応や説明資料の作成」「所管事務調査」などで、前年比約 3~4 倍となっている。論点整理、提言集約、提言の素案作成などにも生成 AI を活用すると、時間短縮だけでなく、客観的に意見の引用ができるため客観性を担保出来るというメリットがある。

また生成 AI を活用する事で、市民と議会の「関係」を変えることができる。

山内氏所属の研究所の調査「地方議会・地方議員の印象」では、15 歳~60 歳以上を 6 つの区分にわけてあるが、どの年代でも 50%以上の割合で「地方議会・地方議員は何をしているのかわからない」との回答という結果であった。人々の情報収集は、検索エンジンで特定の情報を探す形から、まず生成 AI に聞く形へ変化してきている。生成 AI は、公開情報を参照して回答するため、AI が読み取れる情報を発信しているかが重要。

AI 時代以前から「情報公開」は議会改革の土台であり前提だったが、AI 時代はいよいよ死活問題！AI が発見しやすい形のテキストデータで公開する必要がある。議会ウェブサイトの充実、議会だよりのテキスト化、「議案のカルテ」などが有効。議会での議論が AI 回答に反映される状態をつくる事が必要である。

* 28日（2日目）

9:00～10:30

＜公民連携で地域を再生する～オガールが実践してきた協働のデザイン～＞

講師：（株）オガール 代表取締役 岡崎正信氏

岩手県紫波町 人口 33,000 人弱

盛岡市に隣接する町。昼夜人口比率が県内で最低（働く場所、学校がないため昼間は町外へ出て、夜に戻ってくる）→言い換えれば住むには良い町。

駅前に町が 28.5 億円で購入した土地（財政難もあり 10 年間手つかず状態）を、PPP を活用して見事町の一大拠点を作り上げ、全国から注目を集めている。役場、図書館、スポーツ施設、医療機関、産地直売所、飲食店、住宅、ホテル、子育て支援施設、公園など暮らしに必要なあらゆるものを集めたのがオガール地区であり、その仕掛け人が講師の岡崎氏である。

「自分の街の価値を上げる事を考えるべき。企業誘致云々も大事かもしれないが“ここに住みたい”と思える街づくりが大切。仕事があるから住むんじゃない、ここに住みたいから住む」とのことだ。オガール地区が出来てから、20～40 代の人口が増え続けているそうだ。

10:50～12:20

＜政策議会の質問力＞

講師：法政大学法学部政治学科 教授 土山希美氏

議会における一般質問のあり方についての講義であった。

一般質問とは「議員にとって自分の活動と知見を集約し、わがまちの＜政策・制度＞の争点を提起し、監査・提案できる機会」であると定義づけられている。ただのパフォーマンスに終わる事のないようにしなければならない。心して取り組まなければと再度肝に銘じた。

以上 2 日間にわたっての研修であった。

市政に活かせること（まとめ）	1 日目の泉大津市の事例は、市の規模としてもあまり変わりはなく本市にも活かせる事がたくさんあるのではないかと感じた。給食部会の勉強会も行っているが、オーガニックを給食に取り入れたいという保護者の意見が多い中、市としては「良いとは思うがなかなか…」といった感じで止まってしまっている。今後前向きに検討していく材料になるのではないかと感じた。 また本市も三原港、円一エリアと再開発が行われようとしているが、オガール地区を参考に、今からでも取り入れる事の出来る案件がないかを検討すべきではないかと感じる。 今回の参加は私達公明党会派の3人だけであったが、他議員や理事者も一緒に聴きたい講義ばかりであった。
----------------	--